

メギ科 ナンテン属

# ナンテン (南天)

*Nandina domestica* Thunb.

## 自生環境

山林

## 原産地

日本在来 (?)

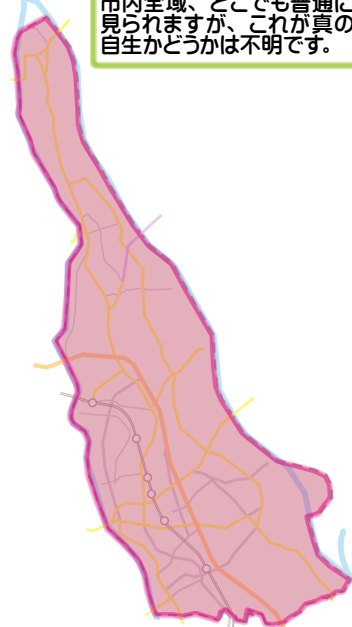
## 生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

いたるところにたくさん生えていますが、真の自生かどうかは不明です。庭木として栽培され、鳥さんがあちこちにタネを運ぶため、栽培からの野生化も相当にあると考えられます。

## 市内の分布状況

市内全域、どこでも普通に見られますが、これが真の自生かどうかは不明です。



## 特徴

- ☆ 樹高3 m ほどになる常緑低木で、古くから庭木として栽培されてきました。関東地方以西の山林にも自生があるとされますが、鳥さんがタネをあちこちに運び、そこから芽生えて育ったと思われる株も多く見られます。そのため野生のものは真の自生ではなく、栽培からの野生化と考える説もあります。
- ☆ 5~6月ごろ、枝先に小さな白い花をびっしり咲かせます。つぼみの段階では多数の花びらがありますが、開花と同時にほとんど脱落してしまい、もつとも内側の6枚が残ります。果実は秋から冬にかけて赤く熟します。雌雄同株なので1本で結実します。
- ☆ 近年人気なのが、オタフクナンテンと呼ばれる品種です。オタフクナンテンは背が低く、ぷっくりとした感じの葉を多数つけ、寒さに当たると鮮やかに紅葉します。花や果実はつきませんが、カラーリーフとして花だんや寄せ植えの彩りに使われます。

## 古くからおなじみの庭木

「難を転じる」や「成る天」とも呼ばれて縁起が良いため、古くから庭木の定番でした。果実は食べられませんが、彩りの少ない冬期に赤く熟し、白や黄色など色ちがいの品種もあります。昔の子どもたちは、雪が降ると、庭先のナンテンの葉を耳に、果実を目にして雪兎をつくったりもしました。また変形した葉(葉芸)を楽しむ古典園芸植物として、人気が出た時代もありました。

開花時の花びらは  
ぶつう6枚。雄しべは6本



秋になると  
果実は赤く熟す



園芸品種 シロミノナンテン

果実は白く熟す



初夏に白い花を  
びっしりと咲かせる



よく育ったものは  
樹高3m くらいになる



とても背が低く  
コンパクトにまとまる



オタフクナンテン 園芸品種

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

